

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	群馬大学
設置者名	国立大学法人群馬大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科等名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数			省令で定める基準単位数	配置困難
			教養教育科目	専門科目	合計		
共同教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信	9	49	58	13	
教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信	17	62	79	13	
情報学部	情報学科	夜・通信	21	29	50	13	
社会情報学部	社会情報学科	夜・通信	16	25	41	13	
医学部	医学科	夜・通信	19	83	102	19	
	保健学科 看護学専攻	夜・通信	17	90	107	13	
	保健学科 検査技術科学専攻	夜・通信	17	75	92	13	
	保健学科 理学療法学専攻	夜・通信	19	64	83	13	
	保健学科 作業療法学専攻	夜・通信	17	71	88	13	
理工学部	物質・環境類	夜・通信	17	7	24	13	
	電子・機械類	夜・通信	17	7	24	13	
	化学・生物化学科	夜・通信	17	5	22	13	
	機械知能システム 理工学科	夜・通信	17	13	30	13	
	環境創生理工学科	夜・通信	17	12	29	13	

	電子情報理工学科	夜・通信	17	21	38	13	
	総合理工学科	夜・通信	17	10	27	13	
<p>(備考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同教育学部，情報学部，理工学部（2類）は，完成年度を越えていないため，申請年度に開講されている科目数を計上している。 ・教育学部，社会情報学部及び理工学部（5学科）は，改組等により学生募集を停止しているため，教養教育科目については，2022年度以前の開講科目数を計上している。 							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	群馬大学
設置者名	国立大学法人群馬大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out002/g1708>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立大学法人 山口大 学 理事・副学長	2年 (R4.4.1～ R6.3.31)	総務・財務担当
非常勤	なし(元 群馬県生活文 化スポーツ部長)	2年 (R3.4.1～ R5.3.31)	学長特命担当(男女 共同参画・ダイバー シティ)
非常勤	公益財団法人 群馬県 産業支援機構 群馬県 プロフェッショナル人 材戦略拠点マネージャ ー	2年 (R3.4.1～ R5.3.31)	学長特命担当(産学 連携)
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	群馬大学
設置者名	国立大学法人群馬大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各学部の授業科目を担当する教員は、『シラバス入力ガイドライン』に基づき、当該授業科目の授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等を教務システムからWeb入力によりシラバスを作成している。</p> <p>なお、『シラバス』は、授業開講年度の4月にホームページに掲載し公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.kyomu-sys.gunma-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各学生の学修成果に基づき、シラバスに記載した成績評価基準(授業評価方法)により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>『G P A制度及び履修取消し制度に関する申合せ』により、全学的に統一した算定方法等を定め、客観的な指標であるG P Aを設定するとともに、ホームページに掲載し公表している。</p> <p>この申合せにより算定したG P Aの分布状況を把握し、成績評価を適切に実施している。</p> <p>[G P A算出式]</p> $G P A = \frac{(S \text{の単位数} \times 4 + A \text{の単位数} \times 4 + B \text{の単位数} \times 3 + C \text{の単位数} \times 2 + D \text{の単位数} \times 0)}{\text{登録総単位数}}$	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.gunma-u.ac.jp/wp-content/uploads/2021/06/f89744e07567df4a92c273f28d5a91ba.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><卒業認定・学位授与の条件></p> <p>1. 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。</p> <p>2. 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。</p> <p><学修成果の目標></p> <p>専門的学識，技能</p> <p>1. 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。</p> <p>幅広い教養，学際性</p> <p>2. 人間社会，歴史・文化，自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。</p> <p>論理的思考力，コミュニケーション力</p> <p>3. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。</p> <p>社会人としての自覚，国際性</p> <p>4. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。</p> <p>上記の全学ディプロマ・ポリシーのほか、各学部のディプロマ・ポリシーや学生の修得単位数等を踏まえ、卒業判定会議（教授会等）において、適切に卒業を認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>http://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902/g2087#g001</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	群馬大学
設置者名	国立大学法人群馬大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out007/g1894
収支計算書又は損益計算書	https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out007/g1894
財産目録	—
事業報告書	https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out007/g1894
監事による監査報告(書)	https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out007/g1894

2. 事業計画(任意記載事項)

中長期計画(名称:中期目標・中期計画(第四期)対象年度:令和4年度~令和9年度)
公表方法: https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out006/g1850

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out006/out006_001/g1792

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的, 卒業の認定に関する方針, 教育課程の編成及び実施に関する方針, 入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 共同教育学部
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902)
(概要) 本学部は, 新しい時代の学校教育を担う教員, 中でも小学校・中学校・特別支援学校の教員を養成することを主な目的とし, 豊かな教養と優れた人格, 幅広い実践的な能力を十分に備えた人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2089)
(概要) 本学部では, 所定の年限に渡って在学・学修し, かつ所定の単位を修得した, 次のような力量を身に付けた者に学士の学位を授与します。 (1) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し, 教師としての使命感を持って子どもと向き合い, その成長を支えることができる。 (2) 子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割についての識見に基づき, 一人ひとりの子どもの理解と学習集団の形成ができるとともに, 発達段階に応じた教育方法を工夫して個に応じた指導ができる。 (3) 教科及び教育課程に関する知識と技能を持ち, 子どもの実態に即した教材分析・開発と子ども主体の授業を実践できる。 (4) 現代の社会における学校教育に関する様々な課題について関心を持ち, 自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (5) 共に支え合い, 高め合える人間関係を築くことができ, 同僚, 保護者, 地域の人々等と協力して教育活動を進めることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2089)
(概要) 本学部では, 学生が教師に相応しい力量を身につけるため, 次のような教育の場を設けます。 (1) 学校教育の基礎となる各種の理論を学び, 教師としての資質を向上させる教育 (2) 各教科についての専門的知識・技能を高め, 子どもを指導するための基礎となる能力を獲得する教育 (3) 各教科について子どもが学ぶ意義を理解し, 各教科の指導方法の理論に基づいて実践的指導力の基礎を習得する教育 (4) 教育実習において学校現場で子どもを指導するなどの体験を通して, 実践的指導力を高める教育

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2089）

（概要）

本学部は、次のような人の入学を歓迎します。

- (1) 教職を目指す明確な意志と情熱を有し、子どもの成長に関わることに喜びを感じられる人
- (2) 「学ぶ」「教える」「育てる」「発達する」という行為・現象について関心があり、これらのことについて学修意欲のある人
- (3) ものごとを複数の視点から考察し、自ら判断することができる人
- (4) 自己の考えを的確に表現し他者に伝えることができ、他者が表現する考えを受けとることができる人
- (5) 様々な活動に主体的に取り組むことができるとともに、他者と協働することができる人
- (6) 高等学校における履修内容を理解し、教職を目指すために必要な基礎学力を身に付けている人

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902 ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、新しい時代の学校教育を担う教員、中でも小学校・中学校・特別支援学校の教員を養成することを主な目的とし、豊かな教養と優れた人格、幅広い実践的な能力を十分に備えた人材を育成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2090 ）
<p>（概要）</p> <p>所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 優れた人間性と豊かな教養を有している者 2. 各教科の内容について、深い認識を有している者 3. 各教科について、実践的な指導力を有している者 4. 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有している者 5. 子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割について、十分に理解している者 6. 子ども、親、同僚などとコミュニケーションをとることができる者
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2090 ）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教員に求められる幅広い教養を培う教育 2. 教育に関わる様々な理論に裏付けられた、現実の教育問題を考える力を養う教育 3. 教科についての専門的知識を高める教育 4. 教科指導法など、学校教員として必要となる知識・技術を培う教育 5. 教育実習などの体験的学習を通して、実践的指導力を養う教育 6. 卒業研究を通して、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を養う教育
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2090 ）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職を目指す明確な意志と情熱を有する人 2. 児童・生徒の成長に関わることに喜びを感じられる人 3. 周囲とのコミュニケーション能力や協調性を備える人 4. 諸課題の解決に向けて粘り強く努力できる人 5. 系・専攻に関する事項に関心を持ち、教職を目指すために必要な基礎学力を有する人 <p><入学者選抜の方針・方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般入試 各系・専攻が定めた大学入試センター試験及び個別学力検査等（学力試験、小論文、実技試験、面接等）の成績並びに調査書を総合的に判断して選抜します。 2. 推薦入試 各専攻が定めた条件を満たし、出身学校長の推薦を受けた人を対象に、出願書類、面接、小論文、実技等を総合的に判断して選抜します。

学部等名 情報学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902 ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、高度情報化社会において、情報と結びつく多様な分野を融合した学問体系としての情報学の創造に基づいて、情報技術の創出と利活用を可能とする知識基盤を備え、持続可能でインクルーシブな社会の発展と課題解決に寄与できる人材を養成し、地域社会や国際社会に貢献することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3002 ）
<p>（概要）</p> <p><学位授与の条件，達成度・能力評価の基準></p> <p>本学部では、所定の年限在学し、かつ全学のディプロマ・ポリシーを踏まえた上で、教養教育科目、本学部で定めた必修科目、選択科目、PBL科目、ゼミナール、卒業研究の所定の単位を修得し、専門的学識、技能に関して、以下の資質を身に付けたと認められる者に対して学士（情報学）の学位を授与します。</p> <p><学修成果の目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代情報社会の諸問題の根幹と先端的な情報科学の特性を理解し、人間中心社会に向けて社会課題解決に統計学や情報技術を活用することができる。 2. データをもとに具体的な社会組織や制度を改良することができる能力を持つ。 3. 構想される社会目標の達成のためのデータの収集と実証的な検証をする能力を修得する。コミュニケーション能力をもとにデータサイエンスの結果を社会実装することができる。 4. 人工知能やIoTを含む先端技術の創出と利活用の知識基盤を備えている。 <p>さらに、各プログラムにおいては以下の専門的学識や能力を修得していることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文情報プログラムにおいては、現代情報社会の諸問題の根幹と先端的な情報科学の特性を理解し、人間中心社会の構想を提示する能力 具体的には、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・人文科学的知見を活用して高度情報化社会における課題を探索する能力 ・高度情報化社会における課題解決のための実践的理念を提供する能力 2. 社会共創プログラムにおいては、持続可能な包摂型社会の実現に向けた課題解決を、具体的な社会組織や制度の設計・構築と検証によって図ることができる能力 具体的には、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・高度情報化によるシステム（制度）の変化について、社会科学的知見を活用して課題を発見する能力 ・社会的課題の解決及び社会目標の達成のためのシステム（制度）の構築や方策を提案できる能力 3. データサイエンスプログラムにおいては、社会的課題に関わるデータの適切な収集、その科学的分析による問題の定式化・解決策を提示する能力 具体的には、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題の実証的定式化と数理最適化による解決策を提示する能力 ・構想される社会目標の達成のためのデータの収集と実証的な検証をする能力 4. 計算機科学プログラムにおいては、計算機を利用するための基礎知識を身に付け、論理的思考により科学、工学に関する問題に応用する能力

具体的には、次のとおりです。

- ・計算や情報を視点とした情報科学の数学理論を身につけ、応用する能力
- ・計算機の構造と原理，計算機による効率的な計算の方法及び計算機システムの基礎知識を身につけ，それらに関する技術を開発する能力
- ・計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための理論を身につけ，その技術を開発する能力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3002>）

（概要）

＜教育の目標＞

全学的な協力体制の下，教養教育と専門教育の融合を図り，幅広く深い教養，豊かな知性と感性，総合的な判断力，専門分野の基礎的能力を育成するため，学生の潜在能力を最大限引き出せる教育

＜教育課程の構成＞

全学のディプロマ・ポリシーの専門的学識・能力に対応して，次の方針に従って教育課程を教育プログラムとして体系的に編成し，実施します。

1. 初年次は，人文科学，社会科学，自然科学および外国語教育などの教養教育科目により，全学部共通の豊かな人間性と広い見識を持つことの重要性を理解し，コミュニケーション能力により国際的に活躍するための基本素養を身に付けさせる。また，数理・データサイエンスに関しても統計学的基礎を身に付けさせ，その後の4プログラムの学習の基礎となる知識とスキルを身に付けさせる。4プログラムのそれぞれの特徴を理解し，2年目から各プログラムの専門性を重視した教育を行うため，学部基盤共通科目として文化・社会・倫理的諸問題と社会組織や制度の設計・構築のための基本的知識と統計学・情報技術の基本的スキルを身に付けさせる。
2. 2年次以降は，教育プログラムの目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。また，この専門教育を補う形で，選択したプログラムとは異なるプログラムの基礎的な科目の教育を行い，分野横断の幅広い専門知識の獲得を目指す教育を行う。
3. 3年次以降は主に融合型PBL，ゼミナールおよび卒業研究などによりアクティブ・ラーニングを実践する教育を行う。

なお，4つの教育プログラムにおいて，それぞれ次のような教育を行うことで，高度情報化社会において情報を基軸としてあらゆる分野で活躍するための専門能力を修得させる。

＜教育内容・方法＞

1. 人文情報プログラムにおいては，ソーシャルメディア論，コミュニケーション論，理論社会学，社会心理学，言語メディア論などを網羅した体系的なカリキュラムを通じて，現代情報社会の諸問題の根幹と先端的な情報科学の特性を理解させる教育を実施する。これにより，人間中心社会の構想を提示できる人材を育てる教育を展開する。
2. 社会共創プログラムにおいては，政策情報論，情報政治論，情報法，環境法，経営組織論などを網羅した体系的なカリキュラムを通じて，情報技術を用いた社会組織や制度を設計し，構築する能力を身に付けられる教育を実施する。これにより，設計し，構築した社会組織や制度を，グローバルに実現し得る人材を育てる教育を展開する。
3. データサイエンスプログラムにおいては，統計学，機械学習，数理最適化，データマイニング，シミュレーションなどを網羅した体系的なカリキュラムを通じて，課題に対して適切なデータの収集能力・分析能力を身に付けられる教育を実施する。これにより，その課題を数理的に定式化し，解決策の導出ができる人材を育てる教育を展開する。
4. 計算機科学プログラムにおいては，計算機システム，情報ネットワーク，オペレーティングシステム，画像処理など情報科学の基礎理論から応用技術までを網羅した体系的なカリキュラムを通じて，情報科学に関連した幅広い基礎知識を身に付けられる教育を

実施する。これにより、課題解決のための論理的思考に基づいた応用力と倫理観を備え、科学技術の発展にグローバルに貢献できる人材を育てる教育を展開する。

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS, A, B, C, Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3002>）

（概要）

<人材育成の目標>

人工知能（AI）やIoTを含む先端技術の創出・利活用を可能とする知識基盤を備え、人文科学・社会科学の知見から情報社会における課題を発見し、情報科学とデータサイエンスの知識を総合することで、持続可能でインクルーシブな社会（Society5.0）の発展と課題解決に寄与できる人材の育成を目指す。

<入学者に求める能力・資質>

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求める。

1. 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある人
2. 情報学を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探求心、コミュニケーション能力を持っている人
3. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
4. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人
5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている人
6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている人

学部等名 社会情報学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902 ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、情報科学と人文・社会科学との融合のもとで、情報と人間の共存の在り方を追究し、高度情報化社会の要請に応える人材の育成、新しい学問分野の創造、地域社会及び国際社会に貢献することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2091 ）
<p>（概要）</p> <p>〈学位授与の条件、達成度・能力評価の基準〉</p> <p>所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。</p> <p>上記のことを前提に、国立大学唯一の社会情報学部であることから、学士に求められる能力評価の一般的な基準を参考にしつつも、高度情報社会において有用な能力を獲得したかどうかを厳しく評価することとする。</p> <p>〈学修成果の目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会で情報が生産・流通・加工・蓄積・活用される一連のプロセス（社会情報過程）に関する知識を有し、課題を理解できること 2. 情報社会に生起する組織や地域社会の諸課題に関心を持ち、その解決に意欲を持つこと 3. 科学的・批判的に思考・判断する能力を有し、自ら得た知見を分かりやすく説明・伝達する能力を備えていること 4. 実践的な情報処理能力と課題に即したデータの収集・分析能力を有し、適切な考察を行うことができること 5. 外国語運用能力を有し、国内外で活躍できること
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2091 ）
<p>（概要）</p> <p>〈教育の目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学での学修に必要な基礎的な学力や学修の方法・技術を修得させ、多角的な視点から問題を探究する姿勢を身に付けさせる教育 2. 専門教育を支える十分な社会情報学的な思考方法を醸成する教育 3. 情報リテラシーやデータ収集・分析能力、外国語運用能力等を養成する教育 4. 高度情報社会の特質を専門的・多角的に読み解く力や問題解決能力を養成する教育 5. 自ら設定したテーマに沿って調査・研究活動を進め、それを論文や提案として結実させる能力を養成する教育 <p>〈教育課程の構成〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年次を中心に編成された人文・社会科学，自然科学，外国語科目等の教養基盤科目，教養育成科目により基礎的素養を身に付ける教育を展開する。また，専門教育の基礎となるコア科目及びスキル系科目を学修させ，教養教育から専門教育へのスムーズな導入を図る。 2. これを基盤として，教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため，演習を重視し，専門分野での実践力を養う。 <p>〈教育内容・方法〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実習の各科目 2. シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開 3. シラバス記載の目標の達成に向けた講義時間外の自己学習（予習・復習）の督励

〈学修成果の評価〉

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS, A, B, C, Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2091）

（概要）

〈人材育成の目標〉

社会で情報が生産・流通・加工・蓄積・活用される過程に関する知識を有し、批判的な思考・判断によって高度情報社会の課題を発見し、その解決を科学的な思考と実践的な情報処理やデータの収集・分析によって提案できる人材の育成

〈入学者に求める能力・資質〉

1. 社会の仕組みや情報技術に関する基本的な知識を持つ人
2. 科学的な考え方や基本的な分析手法を身につけている人
3. 思考力・表現力の基礎となる言語運用能力を身につけている人
4. 高度情報社会の在り方や望ましい発展に関心がある人
5. 情報処理能力やデータの収集・分析能力を身につけようとする人
6. 外国語運用能力の向上と多文化の理解に関心がある人

〈入学に際し必要な基礎学力〉

入学試験で選択した科目に限らず幅広く学習していることが望ましい。国語や数学、英語、地理歴史、公民、理科等を学習し、さらに広く情報社会の出来事に関心を持つようにしておくことが望ましい。

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/wp-content/uploads/2021/05/3d6ecc971f8f02176a3c6bf068ef8a2c.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>医学科は、医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる者であって、次の各号に掲げる人材の育成を目的とする。</p> <p>(1) 医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができ、他者と信頼関係を築ける者</p> <p>(2) 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者</p> <p>(3) 医学知識に裏打ちされた臨床と研究の能力を修得し、患者により良い医療を提供する能力と、医学や医療の発展に貢献する意欲を備えた者</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902/g2087 ）
<p>（概要）</p> <p>所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。</p> <p>医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる者</p> <p>1. 医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができ、他者と信頼関係を築ける者</p> <p>2. 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者</p> <p>3. 医学知識に裏打ちされた臨床と研究の能力を修得し、患者により良い医療を提供する能力と、医学や医療の発展に貢献する意欲を備えた者</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902/g2087 ）
<p>（概要）</p> <p><教育の目標></p> <p>医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知（Science）、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面（SES）にわたって生涯自己研鑽する力がつく教育</p> <p>1 自分をふりかえり他者を思いやる心が育ち、コミュニケーションを通して相互理解を図る態度が身につく教育</p> <p>2 自然科学、医学、医療、人間と社会に関わる知を習得し、それを実践でいかす力が身につく教育</p> <p>3 新たな課題にも対応できる問題解決能力が身につく、リサーチマインドが育つ教育</p> <p>4 生涯にわたって社会貢献と自己研鑽に努める意欲が育つ教育</p> <p><教育課程の編成></p> <p>1 教養教育科目では幅広く深い教養、総合的な判断力、自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。</p> <p>2 専門教育科目では、講義と実験、実習を通して医師、医学系研究者、医療行政担当者として社会に貢献するために必要となる知識、技能、態度を身につけさせる。</p>

- 3 臨床実習では、共用試験に合格し、**Student Doctor** と認定された学生が実践的な知識と技能を学ぶとともに、医師にふさわしい態度を身につけさせる。
- 4 6年間を通して、医療安全、医療倫理、多職種連携の学修機会を提供する。
- 5 カリキュラムツリーやカリキュラムマップを用いて、教育課程の体系的な構造を明示するとともに、各科目の教育内容をシラバスに詳述する。

<教育内容・方法>

- 1 教養教育科目および専門教育科目では、能動的学修を取り入れて深い教養、総合的な判断力、自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- 2 人間科学科目では、講義、実習に加えて、体験型、討論型授業を取り入れ、自分をふりかえり他者を思いやる心が育ち、相互理解を図る態度を身につく教育を行い、医師になろうとする者に必要な、知識と技能だけでなく基本的な素養を身につけさせる。
- 3 生命医学科目、臨床医学科目、臨床医学講義・演習では、講義、演習、実習に加えてグループ学習を取り入れ、医師になろうとする者に必要な、知識と技能、新たな課題にも対応できる問題解決能力を身につけさせる。
- 4 臨床医学実習では、チーム医療実習や臨床実習で医学、医療、人間と社会に関わる知識と技能及び医師としての素養を身に付け、実践でいかす力を身につけさせる。

<学修成果の評価>

- 1 各科目において、シラバスに記載した評価方法に基づき到達目標の達成度を評価する。
- 2 科目単位の評価と併せ、アウトカムに基づき医学生として求められる資質・適性・能力についても評価を行う。
- 3 学修成果の評価は学則に従い S、A、B、C、D の 5 段階での判定を行う。
- 4 4年次に全国共通の学修到達度評価である共用試験を実施し、診療参加型臨床実習に参加するための知識・技能・態度について評価する。
- 5 6年次に診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験を実施し、総合的臨床能力について評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902/g2087>）

（概要）

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることをふまえ、医学生として、科学的知 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) の3つの面にわたって自己研鑽に励むことができる人

- 1 豊かな感受性、奉仕の精神を備え、医師としてふさわしい資質を身に付けることを目指して、不断の努力を積み重ねられる人
- 2 医療、医学研究、医学教育もしくは医療行政などの分野において、社会に貢献することへの志と強い信念を持っている人
- 3 本学科の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人

学部等名 医学部保健学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902 ）
<p>（概要）</p> <p>保健学科は、次の各号に掲げる人材の育成を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 高度化・専門化する保健医療の担い手となる、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士及び作業療法士 (2) 医療技術の学問体系の確立と発展に寄与しうる専門職 (3) チーム医療においてリーダーシップを発揮できる人材 (4) 国際社会で活躍できる専門職
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/adm001_001/g2095 ）
<p>（概要）</p> <p>所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得し、各専攻のディプロマ・ポリシーが規定する学識と能力を持つ次のような者に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療の中核を担う専門職業人となるために必要な知識と技術を備え、人間の尊厳を尊ぶ心を持つ者 2. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させてゆく意欲と自己開発力を持つ者 3. チーム医療を担う自覚を有し、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける者 4. 保健医療の諸課題に対し、多面的視点からの柔軟な思考、的確な判断と対応ができる者
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/adm001_001/g2095 ）
<p>（概要）</p> <p>知性と行動力を備えた人間性豊かな保健医療人材の育成を目指し、次のような教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全人的医療の担い手としての人間性の涵養と、専攻分野で必要な基礎力の育成を図る教育 2. 専門教育では基礎から臨床に亘る階層的知識の積み上げを図るとともに、先端の保健医療の学習にも配慮する教育 3. 保健医療の担い手としての主体的思考・行動力と豊かな感性を持つ人材育成を図る教育 4. チーム医療の担い手としての意識と、そこで必要な能力の育成を図る教育 5. 保健医療の諸課題に対応できる地域的視点と国際的視野を持つ人材育成を図る教育
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/adm001_001/g2095 ）
<p>（概要）</p> <p><人材育成の目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。 2. 本学科での学修を通して、学士（看護学・保健学）に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。 3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。

4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 看護師・助産師・保健師，臨床検査技師・細胞検査士，理学療法士，作業療法士となることを通じて，高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想，みずみずしい感性，高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して，論理的な思考を行い，他人に説明できること。
4. 文系課題に対して，自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して，自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

学部等名 理工学部（令和3年度入学者から適用）
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902 ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、人類が進むべき新たな指針を見だし、人と自然との調和のとれた豊かな未来社会を創造するため、高い専門的能力と健全な理念を持ち、地域・社会、日本、そして世界に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p> <p>目的を達成するため、学生と教員との緊密なつながりを基本として、次の各号に掲げる教育を行うものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 幅広い教養、豊かな人間性、社会的倫理観を獲得する教育 (2) 論理的思考力、国際コミュニケーション能力、および社会の中で活躍できる実践的能力を獲得する教育 (3) 理工学の基礎を総合的に俯瞰した知識を習得し、それを活用する能力を獲得する教育 (4) 理工学における自身の専門分野の知識を習得し、それを活用する能力を獲得する教育 (5) 理工学の基礎知識と自身の専門知識を用いて、未知の探求、新たな創生、諸課題の解決を行い得る能力を獲得する教育
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2101 ）
<p>（概要）</p> <p>所定の年限在学し、かつ教育プログラムの定める所定の単位を修得することで、下記の<学修成果の目標>を達成した者に学士（理工学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。 2. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。 3. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。 4. 理工学の基礎を総合的に俯瞰した知識と、それを活用する能力を修得している。 5. 理工学における自身の専門分野の知識と、それを活用する能力を修得している。 6. 未知なるものの探求、新たなものの創生や諸課題の解決に、継続的かつ計画的に、他者と協働して取り組める。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2101 ）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養、豊かな人間性、社会的倫理観を獲得する教育 2. 論理的思考力、国際コミュニケーション能力、および社会の中で活躍できる実践的能力を獲得する教育 3. 理工学の基礎を総合的に俯瞰した知識を習得し、それを活用する能力を獲得する教育 4. 理工学における自身の専門分野の知識を習得し、それを活用する能力を獲得する教育 5. 理工学の基礎知識と自身の専門知識を用いて、未知の探求、新たな創生、諸課題の解決を行い得る能力を獲得する教育
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2101 ）
<p>（概要）</p> <p>群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人</p>

1. 高等学校での学修内容についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
 2. 理工学を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心，コミュニケーション能力を持っている。
 3. 主体的に学ぶ姿勢と，論理的で柔軟な思考能力を持っている。
 4. 知的好奇心が旺盛で，新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
 5. 高い志と豊かな発想力を持ち，未来を切り開く夢と情熱を持っている。
 6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。
- さらに，物質・環境類の教育プログラムを選択しようとする者は，特に理科に関心があることが望まれる。また，電子・機械類の教育プログラムを選択しようとする者は，物理学，数学及び化学に関心を持っていることが望まれる。

学部等名 理工学部（令和2年度入学生まで適用）
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902 ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、21世紀の人類が進むべき新たな指針を見いだし、人と自然との調和のとれた豊かな未来社会を創造するため、高い専門的能力と健全な理念を持ち、地域・社会、日本、そして世界に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p> <p>目的を達成するため、学生と教員との緊密なつながりを基本として、次の各号に掲げる教育を行うものとする。</p> <p>(1) 理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育</p> <p>(2) 国際的な水準を満たし、かつ、各教員の特長を生かした教育</p> <p>(3) 個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育む教育</p> <p>(4) 国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成する教育</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2097 ）
<p>（概要）</p> <p>所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。</p> <p>1. 自然や社会の理解に関する俯瞰的・論理的な見方や考え方を修得した者</p> <p>2. 理工学に関する基礎および専門的な知識を修得した者</p> <p>3. 社会の中で専門分野の知識を活かし、未知なるものの探求、新たなものの創生や諸課題の解決に取り組める者</p> <p>4. 他者の意見を理解し、自らの意見を伝え、外国の人ともコミュニケーションができる素養を持つ者</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2097 ）
<p>（概要）</p> <p>世界の知的基盤を担う創造性豊かな人材を育成するため、学生と教員との緊密なつながりを基本として、次のような教育を行います。</p> <p>1. 理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育</p> <p>2. 国際的な水準を満たし、かつ各教員の特長を活かした教育</p> <p>3. 個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育む教育</p> <p>4. 国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成する教育</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001_001/g2097 ）
<p>（概要）</p> <p>1. 誰も行ったことのない新しいことに挑戦することが好きで、失敗をおそれない人</p> <p>2. 自らの能力向上を目指し、そのための労を惜しまない人</p> <p>3. 自然現象や科学技術などに興味があり、それらを通じて自然科学の原理原則を最後まで追究したい人</p> <p>4. 理工学を学ぶ上での基礎学力を有し、理学的基盤（数学、物理学、化学、生物学など）の理解を基に新理論・新技術の開発にチャレンジしたい人</p> <p>5. 理工学分野で国際的な活躍を目指す人</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out002/g1703#kyouiku>

③教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
共同教育学部	—	31人	37人	10人	1人	0人	79人
情報学部	—	22人	24人	1人	6人	2人	55人
大学院医学系研究科 （医学部医学科）	—	41人	32人	23人	56人	0人	152人
大学院保健学研究科 （医学部保健学科）	—	26人	16人	6人	23人	0人	71人
理工学府（理工学部）	—	64人	58人	0人	35人	0人	157人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		531人					531人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		https://rdb.gunma-u.ac.jp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>全学の取組としては、毎年外部講師を招聘し、全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」を実施しているほか、平成19年度から教員の意欲向上及び大学教育の活性化を図ることを目的として「ベストティーチャー賞」の表彰を実施しており、学長賞受賞者が行う模擬授業を、FDとして教員に公開している。</p> <p>また、学部等においても教育技術向上や認識共有を目的として、各学部固有の特性に配慮したFDを実施している。</p>							

④入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数，収容定員，在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
共同教育学部	190人	203人	106.8%	570人	607人	106.5%	—	—
教育学部	—	—	—	220人	240人	109.1%	—	—
情報学部	170人	171人	100.6%	340人	353人	103.8%	—	—
社会情報学部	—	—	—	240人	255人	106.3%	20人	20人
医学部医学科	108人	108人	100.0%	723人	767人	106.1%	15人	15人
医学部保健学科	160人	162人	101.3%	660人	650人	98.5%	10人	0人
理工学部	470人	488人	103.8%	2,050人	2,176人	106.1%	30人	41人
合計	1,098人	1,132人	103.1%	4,803人	5,048人	105.1%	75人	76人
<p>（備考）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に、教育学部を共同教育学部に改組 ・令和3年度に、社会情報学部と理工学部の一部を統合し、情報学部を設置 ・割合は、小数点第2位を四捨五入 								

b. 卒業生数, 進学者数, 就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育学部	230人 (100%)	18人 (7.8%)	206人 (89.6%)	6人 (2.6%)
社会情報学部	123人 (100%)	4人 (3.3%)	113人 (91.9%)	6人 (4.8%)
医学部医学科	108人 (100%)	0人 (0%)	107人 (99.0%)	1人 (0.1%)
医学部保健学科	155人 (100%)	21人 (13.6%)	129人 (83.2%)	5人 (3.2%)
理工学部	533人 (100%)	343人 (64.4%)	180人 (33.8%)	10人 (1.8%)
工学部	0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
合計	1149人 (100%)	386人 (33.6%)	735人 (64.0%)	28人 (2.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進路状況・産業別就職情報 http://www.gunma-u.ac.jp/career/car005/g2077 卒業生の就職先 http://www.gunma-u.ac.jp/career/car005/g2079				
(備考) 割合は, 小数点2位を四捨五入しており計は必ずしも一致しない				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合, 留年者数, 中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
教育学部	238人 (100%)	227人 (95.4%)	8人 (3.4%)	3人 (1.3%)	0人 (0%)
社会情報学部	102人 (100%)	93人 (91.2%)	6人 (5.9%)	3人 (2.9%)	0人 (0%)
医学部 医学科	108人 (100%)	81人 (75.0%)	26人 (24.1%)	1人 (0.9%)	0人 (0%)
医学部 保健学科	160人 (100%)	150人 (93.8%)	5人 (3.1%)	5人 (3.1%)	0人 (0%)
理工学部	527人 (100%)	468人 (88.8%)	43人 (8.2%)	14人 (2.7%)	2人 (0.4%)
合計	1,135人 (100%)	1,019人 (89.8%)	88人 (7.8%)	26人 (2.3%)	2人 (0.2%)
(備考) その他は, 学校教育法102条第2項及び学校教育方施行規則第159条に規定する大学院への飛び入学制度に係る中途退学 割合は, 小数点2位を四捨五入しており計は必ずしも一致しない					

⑤授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>各学部の授業科目を担当する教員は、「シラバス入力ガイドライン」に基づき、当該授業科目の授業の方法及び内容，到達目標，成績評価の方法や基準等について，教務システム（Web入力）によりシラバスを作成している。</p> <p>なおシラバスは，授業開講年度の4月にホームページにおいて公表している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>各学生の学修成果に基づき，シラバスに記載した成績評価基準（授業評価方法）により，厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
共同教育学部	—	1 5 5 単位	有	3 0 単位 / 学期
教育学部	—	1 3 9 単位	有	3 0 単位 / 学期
情報学部	情報学科	1 2 4 単位	有	4 6 単位 / 年
社会情報学部	社会情報学科	1 3 6 単位	有	4 4 単位 / 年
医学部	医学科	1 9 0 単位	有	3 0 単位 / 学期
医学部	保健学科	1 2 5 単位	有	3 0 単位 / 学期
理工学部	物質・環境類	1 2 4 単位	有	2 7 単位 / 学期
理工学部	電子・機械類	1 2 4 単位	有	2 7 単位 / 学期
理工学部	化学・生物化学科	1 2 8 単位	有	3 0 単位 / 学期
理工学部	機械知能システム 理工学科	1 3 4 単位	有	3 0 単位 / 学期
理工学部	環境創生理工学科	1 3 0 単位	有	3 0 単位 / 学期
理工学部	電子情報理工学科	1 3 4 単位	有	3 0 単位 / 学期
理工学部	総合理工学科	1 2 4 単位	有	3 0 単位 / 学期
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902>

⑧授業料，入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
共同教育学部	—	535,800円	282,000円	円	
教育学部	—	535,800円	282,000円	円	
情報学部	情報学科	535,800円	282,000円	円	
社会情報学部	社会情報学科	535,800円	282,000円	円	
医学部	医学科 保健学科	535,800円	282,000円	円	
理工学部	物質・環境類 電子・機械類	535,800円	282,000円	円	
	化学・生物化学科 機械知能システム理工 学科 環境創生理工学科 電子情報理工学科	535,800円	282,000円	円	
	総合理工学科	267,900円	141,000円	円	

⑨大学等が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生が入学してから卒業するまでの間，学生生活全般にわたり，学生センター（学務部）と各学部が相互に連携しながら学生をサポートする体制を構築している。 また，教務システムにより，web（インターネットに接続されたパソコン，携帯電話，スマートフォン等）から授業に関することをはじめ，試験日程，授業料免除，奨学金，学生の呼び出し等に至るまで，重要な情報を確認することができる。 ポータルシステムを活用し，学生に対して担任（チューター）教員が学修指導を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生の一人ひとりの適性にあった進路決定ができるよう就職活動の支援を行うため「キャリアサポート室」を設置しており，キャリア教育，インターンシップ，就職ガイダンスを実施し，社会で必要な能力育成への支援等を行っている。 また，キャリアカウンセラーによる相談対応や各企業からの求人・会社案内・公務員受験案内，就職関連図書等の閲覧・貸出できるよう各種情報を取り揃えている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生を身体的・精神的にサポートする「健康支援総合センター」を設置し，「からだ」と「こころ」の健康相談，カウンセリングなどを実施するとともに，当該センターHP及びツイッターを活用し，健康管理・感染症予防対策等の情報を随時発信している。 また，「障害学生サポートルーム」を設置し，さまざまな障害のある学生が，修学上，不利な立場におかれることのないよう学習環境を調整し，一人ひとりの学生がその個性と能力を発揮できるようにサポートを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： http://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F110110101713
学校名	群馬大学
設置者名	国立大学法人群馬大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		417人	420人	441人
内 訳	第Ⅰ区分	230人	229人	
	第Ⅱ区分	111人	129人	
	第Ⅲ区分	76人	62人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				446人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	8人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	1人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	28人		
計	37人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	52人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	52人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。